

留学先：Clemson University

氏名： 黒川晶平

【はじめに】

ここクレムソンでは3月に入り、日中気温 25 度以上を記録する夏日が続くようになりました。福井に慣れ親しんだ身としては早すぎる春の到来に戸惑いながらも、暖かな天候の下で残りわずかな留学生活を送っています。今回は大学が位置するサウスカロライナ州の州都などについて触れていきたいと思います。

【Capital Columbia】



2月のある晴れた日に、友人たちとクレムソンから車で2時間ほど行ったところに位置するサウスカロライナ州の州都、コロンビアへ日帰り旅行に出かけました。コロンビア出身の友人が、私を含む日本人数人を実家に招待したいという粋な計らいにより旅行が実現しました。

まず我々が訪れたのは市内の中心にある州会議事堂です。招待してくれた友人は政治学を専攻しており、敷地内を散策中アメリカの政治情勢やコロンビアの歴史的な重要度を事細かに説明してくれました。上の写真にもありますが、庁舎は南北戦争の時代に建てられたもので、国の歴史建造物にも指定されているそうです。昔の石細工職人たちの手によってつくられたと言われる大理石の建物は威厳があり、春の日差しによく映えていました。この庁舎の他にも、建物の内外で様々な歴史を説明する記念碑や史跡を目にしました。それもそのはずで、渡米前にはあまりよく知らなかったのですが、サウスカロライナは南北戦争時、南軍の重要拠点に至るところにあり、アメリカ統一の軌跡やアフリカ系アメリカ人の歴史が眠っているのです。特に、過去の奴隷貿易を示すモニュメントは何か胸に訴えてくるものがあり、世界史を学ぶ意義を改めて感じました。また友人のガイドに従いながら、州議会の上下両議会が行われる場所も見学させてもらいました。実際に議員の方が働いているところも目にすることができ、とても貴重な時間でした。

コロンビアには州会議事堂の他にも訪れるべき有名どころがいくつもあります。その一つが Riverbanks 動物園です。広大な園内には世界中から集められた様々な動物を見ることができ、来園者を楽しませる工夫が至るところに施されています。友人が言うには、世界の動物園ベスト 10 内に入っているらしく、実際に日本の動物園でもめったに見られない珍しい動物を見ることができ、非常に興奮しました。他には州都ということもあって州立博物館があります。ここにも見学に訪れたのですが、その規模に驚きました。州に関する自然史、科学、歴史など幅広いジャンルに渡って展示されており、本物の月の石やマンモスのはく製など、展示物のクオリティや数は国立博物館クラスでもおかしくないのではないかと感じました。

またコロンビア市内にはサウスカロライナ大学というクレムソンの規模をはるかにしのぐ大きな大学があります。USC と呼ばれるこの大学はキャンパスが完全に町の一部と化しており、学生数も 4 万を超え、9 万人収容のフットボールスタジアムも兼ね揃えています。アメリカにはこのような大学が他にもたくさんあるということを考えると、改めてスケールの大きさを感じました。

【学生の意識の違い】



こちらで授業を受けていて感じるのが、アメリカ人学生の興味に対する探究心です。例えば TA を務める日本語のクラスでは、複数の生徒の質疑応答に時間を割かなければならないために予定よりも遅れて終わることがたびたびあります。表現の使い分けや使用場面、文化に対する関心事まで気になったことがあればすぐさま先生に質問するのが当たり前かのように感じます。

また他の授業においても、先生の全体への問いかけに対し、すぐさま何人の生徒が手を挙げ、自由に自分の意見を発表します。以前の報告書でも書きましたが、このアクティブな雰囲気こそアメリカの授業風景だと思われれます。しかし、留学を通して、私は日米の学生の違いは発言するかしないかというよりも基本的に“考える力”に違いがあるように感じています。クレムソンに来て以来、講義を聞いてすぐ考え、疑問を持つあるいは自分なりの意見を持つ意識が高まったような気がします。ここの学生は、その処理が比較的速いからこそ積極的に主張や質問ができるのだと思います。自分が経験した違いを一方向的に一般化するのは良くないと思いますが、ここで感じていることを帰国後にも活かしていきたいです。

今回は春休み中の旅行について中心に書きたいと思います。それではまた。